



**鎌北湖の堤防から下側を見た写真  
 昭和35年4月ごろ（中井由美子さん提供）**

鎌北湖の堤防から下側を見た写真です。中心に見える建物は、山水荘という宿泊施設です。当時は、山水荘から下側に向かうと岩風呂などの施設もありました。

**現在の風景**



**募集中**

昭和60年代ごろまでの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎ (295)2112 内線332までご連絡ください。



**徒然歳時記**

**羽根つき**



羽根つきは、羽子板で羽根を打ち合う遊びで、中国から伝来したといわれています。中国には、硬貨を錘にした羽根を蹴る遊びがあり、それが室町時代に日本へ伝わったということです。日本では、衝羽根という落葉樹の実を羽根にして、手で作る独自の遊びが考案されましたが、時代の変化とともに板を使った羽根つきに変わっていきました。

羽子板は、「羽子木板」の「木」を略したもので、胡鬼板とも呼ばれ、羽根は「胡鬼の子」と呼び、蚊を食べるトンボに似せて作られていました。

室町時代の文献「看聞御記」（1432）には、宮中で「胡鬼の子勝負」という羽根つき大会が行われたことが書かれています。また、戦国時代の解説書「世諺問答」（1544）には、羽根が飛ぶ様子がトンボに似ていることから、子どもの病気の原因になる蚊に刺されないように、蚊の天敵であるトンボに見立てて、正月に羽根つきをするようになったということが書かれています。なお、羽根についている黒い玉は、ムクロジという木の実ですが、無患子と書き、子どもの無病息災を願う気持ちが込められています。

このほか、羽根つきで打ち損なうと顔に墨を塗りますが、これは、鬼が墨などの黒い色を嫌うことから、魔よけの意味が込められているのだそうです。

もうすぐお正月ですね。皆さんもお正月には、無病息災を願い、羽根つきを楽しんでみてはいかがでしょうか。

**編集後記** 12月22日は冬至です。冬至の主役といえば「ゆず」です。今年も毛呂山のゆずは、美しく実りました。香りが強く肉厚な毛呂山のゆず。これからも毛呂山のゆずの魅力をもっと多くの人に知っていただき、町の特産物として全国各地に広めていけたら良いと思っています。(Y)

**わがやのアイドル**



平山 昊希くん (3歳5か月)  
 平山 優希くん (8か月)

弟想いの昊ちゃん、にいに大好き優ちゃん。とっても仲良し兄弟です。2人の笑顔がパパとママの元気の源だよ。毎日癒しをありがとう♡ これからも健やかに育てね。



六ツ崎 響くん (2歳9か月)

最近ハマっている事は、どんぐりと石ころ集め!! ポケットにいっぱい入れて持って帰ってきます。外で遊ぶことが大好きな響です。家族みんな響の成長を楽しみにしています♡

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。  
 ■申・問 役場秘書広報課 ☎ (295) 2112 内線 332

人口 36,549人 (-35人)  
 【男 18,205人 (-4人) 女 18,344人 (-31人)】  
 世帯 15,738戸 (-12戸)  
 ※平成22年12月1日現在(カッコ)内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。